

# CKJS だより

第72号

校長 松平 昭二

shoji\_matsudaira@hotmail.co.jp

## 豊かな愛を

成長していく過程、特に小中学生時代は、不安定な心の動揺期であることを私たちはいつも肝に銘じておかななくてはなりません。

子どもに対する過度の期待や大きすぎる希望は、かえって子どもたちに苦痛を与えて悲しい結果になったことを、私たちは数多く見聞しています。

子どもの心は、本来純粋であり透明です。単純で純粋なだけに、大人から見るとひとすじなわではいかないようにも見えます。正しいと思われることでも、親や教師が注意すればすべて素直に聞き入れるということにはなりません。大人の筋と子どもの理屈がかみ合わないことがしばしばあります。

子どもの長所はほとんどの場合、短所と表裏の関係です。活発すぎれば乱暴になり、自己主張が強くなれば素直さが見えにくくなります。情緒が深化するとめそめそしてくるという具合です。

私たちが子どもに接する場合、忘れていけないことは、第一に子どもの長所や美点を無理なく認めることです。「ねばならない」「〇〇すべきだ」「〇〇せよ」等々は、過度の緊張感をもたせ、反発心を呼び起こし、逆に精神的な混乱の原因をつくりかねません。

第二に、子どもを他と比較しないことです。人間性は、数量や色彩、勝敗ではありません。比較することは、主体性すなわち子どもの自我を摘み取ることに繋がってしまいます。

以上、二つのことが子どもへの愛情を豊かにする基礎・基本であると思えます。

年明けになると、中高の3年生にとっては進路選択の時期となります。学力が思うように伸びない悩み、思春期の揺れ動く心、志望校の問題等、厳しい現実と直面するときでもあります。

そのような時にこそ、私たち大人が、心をこめて、温かく、広く、そして確かな目で子どもたちに接したいものです。それが、子どもたちへの豊かな愛情であると思えます。



本年も本校の教育活動にご支援ご協力をいただきありがとうございました。教職員一同厚く御礼申し上げます。今年度から学校の教育活動もようやくコロナ前に戻りました。来年も子どもたちのために全力を尽くす所存です。よろしくお願ひいたします。皆様、どうぞ良いお年をお迎えください！